

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503627		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム コケモモの家(1階)		
所在地	札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様お一人おひとりが得意な事を活かし、ホーム内で役割を持つことで生活の場であることを感じていただけるよう支援しています。入居者間での助け合いの場面や、気遣いの場面作りをすることで、馴染みの関係作りを行なっています。町内会行事への参加の他、日常的に近隣へ買い物へ出かける事で、地域との交流を図り、入居者の皆様が安心して生活できる関係作りを努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho.hokkaido.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=0170503627&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関わりを大切にしており、利用者のご近所との日常的なお付き合いや祭りなどへの参加を行ったり、近隣の学校の生徒の訪問を受けるなど自然に地域に溶け込んでいる。町内会の回覧板に利用者の個人情報への配慮をした事業所便りを入れてもらい、事業所への理解を促したり、災害時の協力の基本となる信頼関係の構築も継続して行っている。職員が町内会の総会に参加し、地域住民の相談を受けたり、ボランティアの訪問を受けるなど、事業所の持つ専門性を地域に還元するとともに、地域からも支えられる相互交流が行われている。事業所の理念には「和やかでやさしい時間の中で私らしく貴方らしい毎日が送れるように自立支援し暖かい家作りを目指します」と謳われており、職員は利用者の意向の把握や、利用者目線を大切にしながら支援を行っている。職員は利用者のしたいことについて、専門的な視点からできることを見極め、家族との連携も図りながら、生活の中に盛り込んでいる。事業所が目指す「自立支援」がケアの実践に浸透し、利用者職員は個性を認め合い尊重しながら一緒に生活を楽んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で地域の一員として生活できるホームを目指し、理念を考えました。町内会行事への参加やホーム行事を行なう時には近隣へのご挨拶を行い理解を深められるよう努めています。	開設時に全職員で、どのようなケアを目指すのかを話し合い、理念を定めている。職員は理念カードをそれぞれ携帯し、常に理念に立ち返り、方向性を見極めケアに務めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板をお届けにいたり避難訓練に参加していただき交流を行なっています。	町内会の回覧板を利用者一人ひとりに回して、地域の情報を得ながら、各自サインをしている。盆踊りやバザーなど町内会行事に積極的に参加し、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学に来られたご家族や、町内会の方からの質問などにお答えし、ホームでの支援についてお話をいただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を開催し、ご家族や包括支援センター職員への報告や助言、情報交換を行いサービス内容に取り入れています。	会議では事業所の運営や活動の状況を報告し、参加者と質問や意見など活発に交わり、積極的に活用している。議事録は事業所玄関に提示し、誰もが閲覧でき、口頭でも伝え、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者連絡会や、豊平区内の会議への参加の他、複数連携事業で開催する研修会への出席依頼をし、取組み内容をお伝えしています。	市や区との連携に加え北海道の介護保険課や消防署などに、事業所の現状を報告し、必要な情報や協力を得るための連絡や相談を行い、事業所の運営が適切なものとなるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の時間帯は自由に入出りが出来るように玄関の施錠は行なっていません。ミーティングの中で虐待について話し合う貴会を持ち、身体拘束をしないケアの実践を行なっています。	事業所独自のマニュアルを活用し、定期的に職員研修を行っている。また、職員が講師役になりユニットごとに検討会を開くなど、身体拘束による弊害についてより理解が深まるように工夫をしている。日中は玄関を施錠せず、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのテーマをホーム内年間研修計画に取り入れ、日々の支援の振り返りを行い虐待防止に努めています。		

グループホームコケモモの家(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用が必要な入居者に対して関係者と連絡調整を行い、支援出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章での説明を行い、納得していただいてから同意をいただいてから同意をいただいています。質問があれば都度対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理を行なうための処理体制と手順が取り決められています。積極的に声をかけさせていただき事で、話しやすい雰囲気を作り努めています。	家族の来訪時や電話などで事業所の状況を伝え透明性を図り、家族等から意見や要望を引き出すように努めている。話の内容によっては、管理者の部屋で何うなど配慮し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やフロアミーティングの他、日常的に疑問や意見を聞けるようコミュニケーションを図っています。	代表者が事業所を訪問した際に、利用者とお茶を飲んで過ごすなど、管理者や職員のケア方針を理解しており、職員との意思疎通を図っている。また、職員が話し易い環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じて正職員への登用を行なっています。また処遇改善交付金の活用や、外部研修参加の機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修計画や、ホーム内年間研修計画を立て実践しています。また、複数事業所連携事業を活用し、外部研修への参加の機会を増やしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を活用し、他グループホームとの連携により職員研修会参加の機会を充実させています。また、地域の事業所とケアプランについての勉強会を行なっています。		

グループホームコケモモの家(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からご本人の不安や心配事をお伺いし、関係作りに努めることで、新しい環境での生活に慣れていただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族・ご本人の意向や気持ちを伺い、ホームでの支援についてお話させていただき、新しい環境での生活にできるだけ不安を感じず入居して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の問い合わせや見学があった時は、現在のサービスや支援についてお話させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間での助け合いの場面作りや、ご本人が出来る事を継続する事でホーム内で役割を持ち生活をしていただけるよう支援を行なっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームへの来訪時や、毎月送付しているお手紙などで普段の生活の様子をお伝えしています。また、行事に参加できる機会を作り、ご家族にも協力して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の関係者の方には、ご本人と電話や手紙で交流ができるよう支援しています。また、馴染みの場所へ出かけられるよう外出行事にもとりいれています。	利用者の思い出を辿ったり、懐かしい場所へ訪問できる機会を設けている。また、退去した利用者へ皆で歌を吹きこんだテープを届けるなど、利用者が大切にしている関係を繋ぐよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味から話題作りを行う事で入居者間で会話を楽しめるよう支援しています。得意な事や苦手な事をお互いが助け合えるよう家族などの役割を分担し、関わりをもてるよう努めています。		

グループホームコケモモの家(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談をお伺いしたり、ホーム行事に参加していただいたりして関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話だけではなく、日頃の生活の様子や表情などからもそのような生活の様子や表情などからもどのような生活を望んでいるかを汲み取れるようケース記録やセンター方式を活用しています。	利用者本位のケアを行う基礎として、意向を表出しにくい利用者にも選択肢を持てるように、利用者の気持ちに触れる機会を作り、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	入居前、ご家族やご本人からお話を伺っています。入居後も馴染みある生活が続けられるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を個別に記録し、生活リズムを知る事で安心して生活していただけるよう心がけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人の生活の様子を記録し、口頭や表情から嬉しい事・楽しいことなどの把握に努めています。また、ご家族からも意向や要望やお伺いしています。	利用者と家族の意向を盛り込みながら介護計画を作成している。理念を踏まえ、統一したケアができるように、職員間で介護計画の理解と共有が図られている。	利用者の日々の記録は、介護計画の作成が適切に行えるように書式を工夫している。しかし、記載方法が職員間で統一されていないため、モニタリングの際に情報が不足するケースがみられる。今後は計画・実施・評価の流れを意識した記録方法を検討することが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のケース記録に生活の様子や介護計画書のサービス内容を記録しモニタリングに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・ご本人と相談しながら、できるだけ迅速な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を増やす事で、顔なじみの関係作りが行えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望された医療機関へ受診ができるよう、看護師を中心に医療との連携を図り支援を行っています。	利用者の生活の様子や病状をかかりつけ医に的確に情報を伝達し、受診結果を家族に報告している。看護師による利用者の健康管理と共に、適切な医療が受けられるように支援をしている。	

グループホームコケモモの家(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な情報はケース記録に記入し、看護師と申し送りの中で情報交換を行っています。体調の変化があった場合は早急に気づき、受診や経過観察が行えるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活の様子を申し送り、ご本人にとって必要な支援を継続してもらえるように努めています。早期退院できるようご家族との連携を密にし、医療機関との退院に向けての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内で対応できる重度化・終末期のケアや、医療機関との連携について入居時や運営推進会議などでご説明しています。また、終末期ケアの希望があった場合、その後も常時意思や意向の確認をしご本人にとっての最善を考慮し支援しています。	重度化や終末期について、入居時に事業所の対応方針を説明すると共に、利用者の経過と共に家族と話し合いを持ち、その時々意思を確認している。利用者や家族の意向を受け止め、事業所として対応出来る最大限のケアについて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生練習を行い、急変や事故が合った場合に迅速に対応できるよう取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自力避難困難な入居者を布団を利用し、安全に避難できるよう訓練を行っています。火災時に町内会からの応援依頼も行い、避難訓練に参加していただいています。	消防署の指導の下に、年2回の避難訓練を夜間想定で実施している。訓練を重ねる毎に表出する課題について、参加した地域住民と共に、具体的な支援体制の整備について話し合いが持たれている。	火災や災害の備えは利用者の命を守るためにも日々の取り組みが求められる。いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るように職員間で話し合い、被害を最小限に食い止められるような体制作りを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や失禁があった場合、職員間でアイコンタクトを取り連携することで他入居者が気づかないよう配慮しています。	利用者のできることを把握し、傷つけないように配慮しながら、生活の中で自尊心を高めてもらえるような場面作りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で意図的に質問したり、選択肢の中から自ら選べるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら意思を伝える事が苦手な方には、ご本人が選べるような選択肢で何をしたいかを知り、ご本人の意向を確認しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りご本人が着替えを選べるように支援し、身だしなみを整えられるよう配慮しています。		

グループホームコケモモの家(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方達にとって馴染みの食材や、得意な献立を取り入れ、食材の買い物へ一緒に出かけることで調理意欲や食欲が沸くよう支援しています。	利用者の希望を献立に取り入れ、利用者の力量に応じて調理や盛り付け、後片付け等、職員と一緒にやっている。皆で楽しく語らいながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、栄養の確保に努めています。食事量の少ない方へは捕食にて摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています	ご自分で困難さを覚える事が難しい方にはお手伝いさせていただき、必要時には歯科受診ができるよう口腔内の状態をはあくするようつとめています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握や、表情・行動から自然とトイレ誘導しトイレで排泄ができるよう支援しています。排尿間隔や回数を把握し、状況に応じて早期に医療機関への受診ができるよう支援しています。	介護と看護の両方の視点から利用者の排泄の自立のための検討と支援を行っている。時間の間隔や利用者の仕草などから、さり気なくトイレに誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	外出などでうんどうする貴会や、食物繊維の多い食材を食事に取り入れるなどの工夫をしています。水分摂取の少ない方には、飲み物や容器の工夫を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にご本人と時間を相談させていただき、入りたい時間帯に入浴ができるよう支援しています。また、なかなか入浴が出来ない方には清拭や足浴で清潔の保持が出来るよう努めています。	利用者のリズムに合わせて入浴時間を調整し、支援している。浴室に歌の歌詞を貼り、気分よく歌ってもらうなど、楽しい入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出や家事などの日中の活動時間を充実できるように支援し、夜間安眠できるよう支援していきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があった時は全職員が説明が書きを読み把握しています。副薬後の経過観察が必要な場合についてはケース記録へ記入し変化がないか経過観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者の得意な事を知り、ホーム内での役割を見つけ、その方が楽しみとして行えるよう支援しています。		

グループホームコケモモの家(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など日常的に外出支援を行っています。外食や外出先なども食べたい物・行きたい所を行事に取り入れ出かけられるよう努めています。	散歩や近所を見に行ったりと、日々のちょっとした機会に外気に触れるように心がけている。事業所の畑作業や買い物の他にも毎月利用者の希望に沿った外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれが管理出来る金額を所持し、外出時にはご自分で支払いができるよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ポストに手紙が届いている時は、ご本人が自ら取りに行けるよう支援しています。電話の使用については一律の介助ではなく、その方に必要な支援のみさせていただきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭・除菌に効果のある加湿器を使用しています。各所に湿温度計を設置し過ごしやすい室温に配慮しています。また、共有スペースに外出時の写真や入居者の方が作った作品を掲示し、馴染みある環境作りを行っています。	温度や湿度に配慮し、季節感のある装飾を利用者と共に作成し、飾り付けている。利用者の笑顔のあふれる写真を掲示し、温かな雰囲気を作っている。座ってくつろげる場所が廊下などにも設けられており、一人になりたい時や疲れたときに利用することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂の他、廊下にソファを設置し、好きな場所で過ごせるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で買い物に出かけ買ってきた物や、ご本人が作成した絵などをお部屋に飾ったりして居心地の良いお部屋作りができるよう支援しています。	使い慣れた家具の使用や、安全に配慮した設置などの支援が行われている。居室内では、それまでの生活習慣が継続して行えるよう、家族や医療関係者の意見を聞きながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の環境整備のほか、新聞・食材の受け取りなどの日常生活動作を毎日の習慣にすることで自立を目指す支援を行っています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503627		
法人名	株式会社 ケーサポート		
事業所名	グループホーム コケモモの家(2階)		
所在地	札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目(かでの2・7)4F
訪問調査日	平成22年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で地域の一員として生活できるホームを目指し、理念を考えました。町内会行事への参加やホーム行事を行なう時には近隣へのご挨拶を行い理解を深められるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板をお届けにいたり避難訓練に参加していただき交流を行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学に来られたご家族や、町内会の方からの質問などにお答えし、ホームでの支援についてお話をいただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、ご家族や包括支援センター職員への報告や助言、情報交換を行いサービス内容に取り入れています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者連絡会や、豊平区内の会議への参加の他、複数連携事業で開催する研修会への出席依頼をし、取組内容をお伝えしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の時間帯は自由に出入りが出来るように玄関の施錠は行なっていません。ミーティングの中で虐待について話し合う貴会を持ち、身体拘束をしないケアの実践を行なっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのテーマをホーム内年間研修計画に取り入れ、日々の支援の振り返りを行い虐待防止に努めています。		

グループホームコケモモの家(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の活用が必要な入居者に対して関係者と連絡調整を行い、支援出来るよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章での説明を行い、納得していただいているから同意をいただいているから同意をいただいています。質問があれば都度対応しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理を行なうための処理体制と手順が取り決められています。積極的に声をかけさせていただき、話しやすい雰囲気を作り、努めています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やフロアミーティングの他、日常的に疑問や意見を聞けるようコミュニケーションを図っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じて正職員への登用を行なっています。また処遇改善交付金の活用や、外部研修参加の機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修計画や、ホーム内年間研修計画を立て実践しています。また、複数事業所連携事業を活用し、外部研修への参加の機会を増やしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を活用し、他グループホームとの連携により職員研修会参加の機会を充実させています。また、地域の事業所とケアプランについての勉強会を行なっています。		

グループホームコケモモの家(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前からご本人の不安や心配事をお伺いし、関係作りに努めることで、新しい環境での生活に慣れていただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族・ご本人の意向や気持ちを伺い、ホームでの支援についてお話させていただき、新しい環境での生活にできるだけ不安を感じず入居して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の問い合わせや見学があった時は、現在のサービスや支援についてお話させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間での助け合いの場面作りや、ご本人が出来る事を継続する事でホーム内で役割を持ち生活をしていただけるよう支援を行なっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームへの来訪時や、毎月送付しているお手紙などで普段の生活の様子をお伝えしています。また、行事に参加できる機会を作り、ご家族にも協力して頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の関係者の方には、ご本人と電話や手紙で交流ができるよう支援しています。また、馴染みの場所へ出かけられるよう外出行事にもとりいれています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味から話題作りを行う事で入居者間で会話を楽しめるよう支援しています。得意な事や苦手な事をお互いが助け合えるよう家族などの役割を分担し、関わりをもてるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談をお伺いしたり、ホーム行事に参加していただいたりして関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話だけではなく、日頃の生活の様子や表情などからもそのような生活の様子や表情などからもどのような生活を望んでいるかを汲み取れるようケース記録やセンター方式を活用しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	入居前、ご家族やご本人からお話を伺っています。入居後も馴染みある生活が続けられるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を個別に記録し、生活リズムを知る事で安心して生活していただけるよう心がけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人の生活の様子を記録し、口頭や表情から嬉しい事・楽しいことなどの把握に努めています。また、ご家族からも意向や要望やお伺いしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別のケース記録に生活の様子や介護計画書のサービス内容を記録しモニタリングに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・ご本人と相談しながら、できるだけ迅速な対応が出来るよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を増やす事で、顔なじみの関係作りが行えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望された医療機関へ受診ができるよう、看護師を中心に医療との連携を図り支援を行っています。		

グループホームコケモモの家(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な情報はケース記録に記入し、看護師と申し送りの中で情報交換を行っています。体調の変化があった場合は早急に気づき、受診や経過観察が行えるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活の様子を申し送り、ご本人にとって必要な支援を継続してもらえるように努めています。早期退院できるようご家族との連携を密にし、医療機関との退院に向けての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内で対応できる重度化・終末期のケアや、医療機関との連携について入居時や運営推進会議などでご説明しています。また、終末期ケアの希望があった場合、その後も常時意思や意向の確認をしご本人にとっての最善を考慮し支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生練習を行い、急変や事故が合った場合に迅速に対応できるよう取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自力避難困難な入居者を布団を利用し、安全に避難できるよう訓練を行っています。火災時に町内会からの応援依頼も行い、避難訓練に参加していただいています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や失禁が合った場合、職員間でアイコンタクトを取り連携することで他入居者が気づかないよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で意図的に質問したり、選択肢の中から自ら選べるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら意思を伝える事が苦手な方には、ご本人が選べるような選択肢で何をしたいかを知り、ご本人の意向を確認しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りご本人が着替えを選べるように支援し、身だしなみを整えられるよう配慮しています。		

グループホームコケモモの家(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方達にとって馴染みの食材や、得意な献立を取り入れ、食材の買い物へ一緒に出かけることで調理意欲や食欲が沸くよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、栄養の確保に努めています。食事量の少ない方へは捕食にて摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています	ご自分で困難さを覚える事が難しい方にはお手伝いさせていただき、必要時には歯科受診ができるよう口腔内の状態をはあくするようつとめています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握や、表情・行動から自然とトイレ誘導しトイレで排泄ができるよう支援しています。排尿間隔や回数を把握し、状況に応じて早期に医療機関への受診ができるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	外出などでうんどうする貴会や、食物繊維の多い食材を食事に取り入れるなどの工夫をしています。水分摂取の少ない方には、飲み物や容器の工夫を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にご本人と時間を相談させていただき、入りたい時間帯に入浴ができるよう支援しています。また、なかなか入浴が出来ない方には清拭や足浴で清潔の保持が出来るよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出や家事などの日中の活動時間を充実できるように支援し、夜間安眠できるよう支援していきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があった時は全職員が説明が書きを読み把握しています。副薬後の経過観察が必要な場合についてはケース記録へ記入し変化がないか経過観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者の得意な事を知り、ホーム内での役割を見つけ、その方が楽しみとして行えるよう支援しています。		

グループホームコケモモの家(2階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など日常的に外出支援を行っています。外食や外出先なども食べたい物・行きたい所を行事に取り入れ出かけられるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれが管理出来る金額を所持し、外出時にはご自分で支払いができるよう努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ポストに手紙が届いている時は、ご本人が自ら取りに行けるよう支援しています。電話の使用については一律の介助ではなく、その方に必要な支援のみさせていただきます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭・除菌に効果のある加湿器を使用しています。各所に湿温度計を設置し過ごしやすい室温に配慮しています。また、共有スペースに外出時の写真や入居者の方が作った作品を掲示し、馴染みある環境作りを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂の他、廊下にソファを設置し、好きな場所で過ごせるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で買い物に出かけ買ってきた物や、ご本人が作成した絵などをお部屋に飾ったりして居心地の良いお部屋作りができるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の環境整備のほか、新聞・食材の受け取りなどの日常生活動作を毎日の習慣にすることで自立を目指す支援を行っています。		